

本当の新婚生活は  
おじさんの家で  
始まっています♡

DOJIN  
R18  
ADULT ONLY

さあ、  
遠慮しないで  
入って。

ふふ、sさんったら。  
まるで自分の家みたいにおっしゃいますのね。

うん。  
亡くなった父の代わりに  
僕を見守ってくれた  
方だからね。

まったく…  
本当の家族でもないのに  
面倒くさいわ。

sさんの大切な  
ご縁ですもの。  
お父様にお会いするような  
気持ちで伺いますわ。

でも、  
これくらい  
気合い入れたら、  
問題ないはずね。

あ…うん、  
そうだね。

来たのか。



えっ？

この人…  
どこかで…



久しぶり。  
sは  
相変わらずだな。

うわっ、  
見ない間に  
ちよっと  
老けたんじゃない？

失礼な  
口のきき方も  
相変わらずだな。



まさか、  
あの時の！？



ゴムなしで  
いくら？

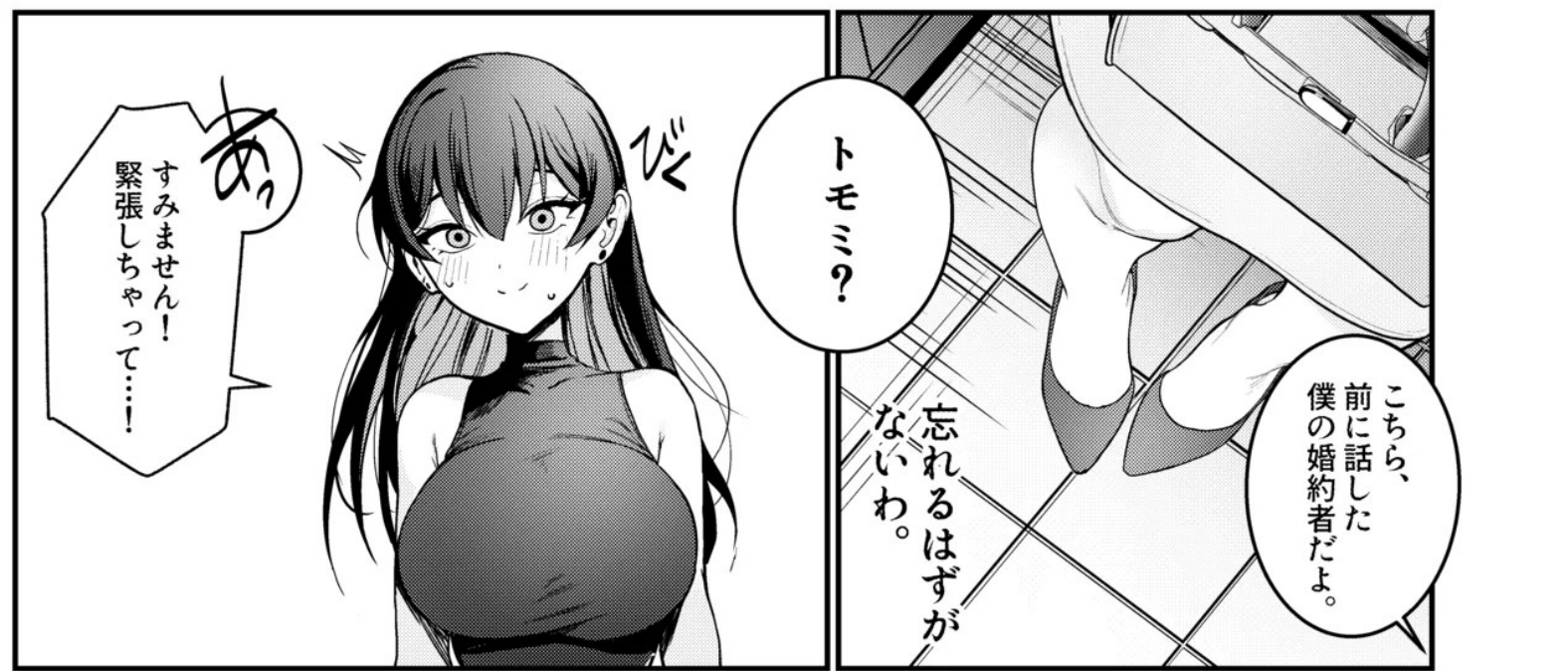
確かに、  
あの頃よりは  
老けてるけど…  
あのホクロはそのまま…

そうすると、  
高くつきますけど…

かまわんよ

君の方から  
呼んでもらえて  
嬉しいよ。

おじさん…  
すげ…





本当に僕にとっては  
父親のような存在なんだ。

昔、カエルを飲み込み込みそうになって  
死にかけてた時に、  
おじさんが助けてくれたんだよ。

はは、そんなこともあったな。  
あの小さかった  
お前が結婚するとは、  
不思議なものだ。

雰囲気は、  
今のところ  
悪くないわね……。



あ、そうだ。

お土産が……

車に置いてきたかも！  
すぐ取ってくるよ。

お気をつけて。

イラッ  
よりによって  
こんな時に！？  
ポンコツ野郎☆

トモミ、ごめん！  
おじさんに僕の昔  
間かせてもらっ  
じゃ、すぐ戻るから！

sよ、  
お前は玄関から  
手ぶらだったぞ。  
変わらず抜けてるな。

あれ、どこ行った？

じゃ、  
すぐ戻るから！

あの天然…  
適当に目を  
つぶってきただけ、

こういう時に  
限って……！！

あはは、sさんは昔から  
物を忘れる方だったんですね。

前に車の鍵を  
会社に忘れて、  
週末に車が使えな  
かったことを思い出しました。

そうね、  
こっちから話し続けて  
思い出す暇も  
与えなければいいのよ。

うっ…  
手が、勝手に…！！

結局車が使えなくて、  
近くの小さな公園に  
行ったんです。

レジャーシートを  
いくら探しても見つからなくて…  
でも、よく考えたら  
車に入れっぱなしだったのを  
思い出したんですよ。

私はね…

君のこと、  
覚えているんだよ。



ガチで終わった

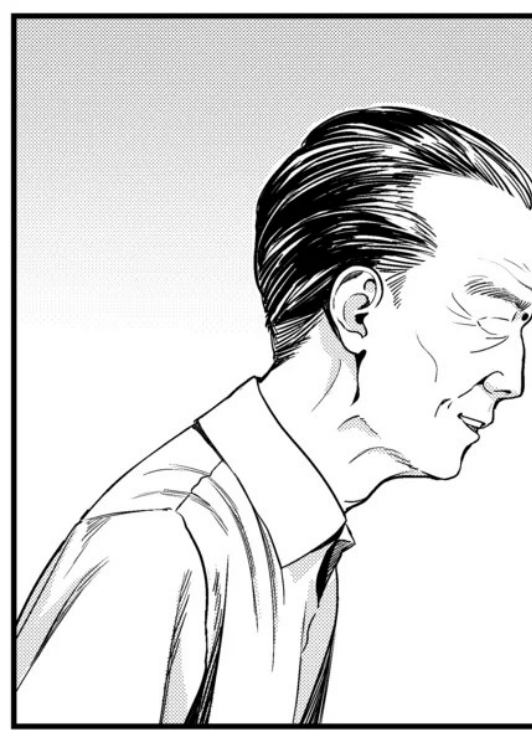


昔みたいに、ちよつと動揺するとすぐ顔に出るんだな、君は。



な、なんのことですか……

キコ



君とは気が合うと思っていたのに。

突然連絡が途絶えて驚いたよ。



それがこんなに大人びて……

私は本当に嬉しいよ。



このクソジジイ……ほんと図々しいし無駄に元気だし……。

また始めてもいいんじゃないか？ どうだい？

えっ……そ、それは……。

S君には内緒でさ……。



この結婚…  
壊すわけにはいかない…  
今を逃したら、  
一生独身かも。くそっ。

とりあえず離れてください。  
そろそろ戻ってきますから。

それから、sさんには  
絶対言わないでください。

わかった。  
連絡先だけ、  
教えてくれ。



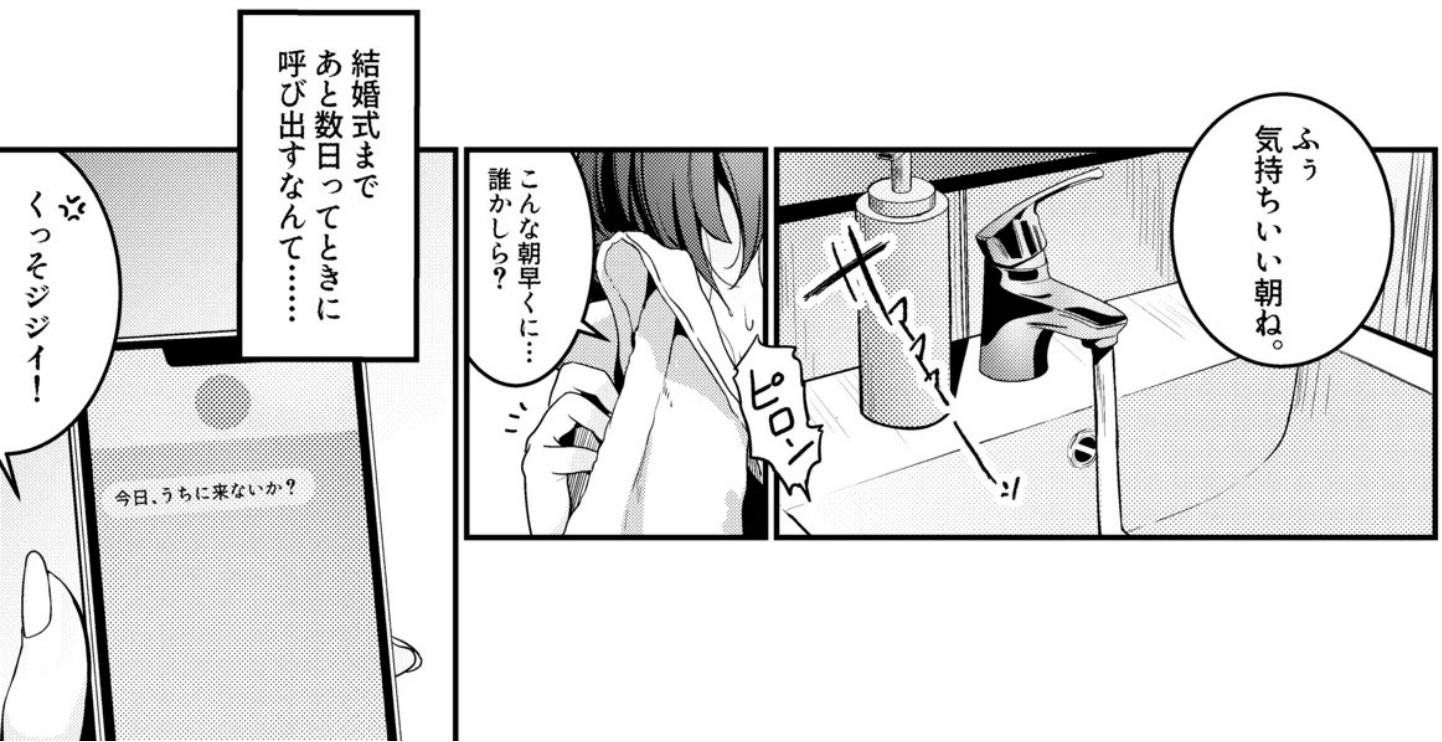
とりあえず  
収まったみたいね…

ああもう、  
これから  
どうすれば…

座席に  
あると思ったら、  
トランクに  
入ってたよ。

家に忘れてこなくて  
よかったですね

私、本当に  
結婚できるのかな…



ふう  
気持ちいい朝ね。

こんな朝早くに…  
誰かしら？

結婚式まで  
あと数日ってときに  
呼び出すなんて…

☆  
くっそジジイ！

今日、うちに来ないか？

仕方なく来  
ちゃったけど…

いきなり当日に  
呼び出されるのは  
ちょっと  
困りますけど…

悪かったな。  
来てくれて  
ありがとう。

無事に  
結婚さえできれば……

こっちだよ。

うっ…  
これで  
本当にいいの…?

君が来ると思って、  
布団も  
洗っておいたんだ。

失礼な  
口のきき方も  
相変わずだな。

今日はよろしく頼むよ。

S君には  
絶対秘密に  
してくださいよね!!

ははは、  
その点は心配いらんよ。

君、昔より胸のあたり、  
ずいぶん成長したな。

何かツプ  
くらいあるんだい?

G…

おお!!  
見せてごらん。

はい



あ、おじさん  
そんなの……ダメ……

大きくて柔らかくて……  
奥の方に感じる何かが  
また……たまらなく  
可愛いじゃないか。

思わず声、  
出ちゃった……。

おじさん……  
もうやめて……。

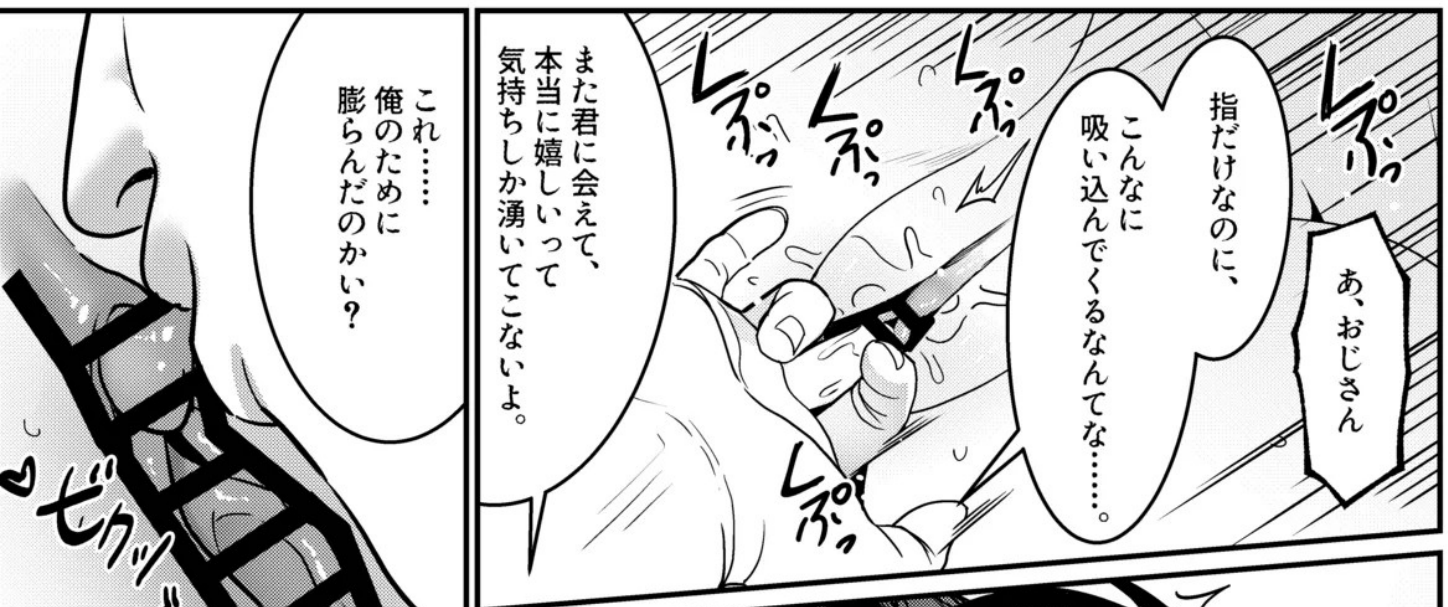
この人……  
手つきが慣れすぎて……

もう我慢できん……

あの日以来、  
ずっと溜めてたんだ。



どれだけ  
気持ちよくても、



また君に会えて、  
本当に嬉しいって  
気持ちしか湧いてこないよ。

指だけなのに、  
こんなに  
吸い込んでくるなんてな……。

あ、おじさん



これはムリ……



顔には出さないって  
決めてたのに……

もう十分ですっ、  
やめてください！

だめ…  
このままじゃ…  
本当に  
イっちゃうかも……

そこまでしなくても大  
丈夫ですから！

ぢぢるる  
ぢぢほっ

遠慮しないでいいよ

ゼンゼン  
ゼン♡

久しぶりに  
来てくれた  
お礼だからね。

でも、これ…  
ほんとに…

いきそうなんです！

ぢぢるる  
ぢぢほっ

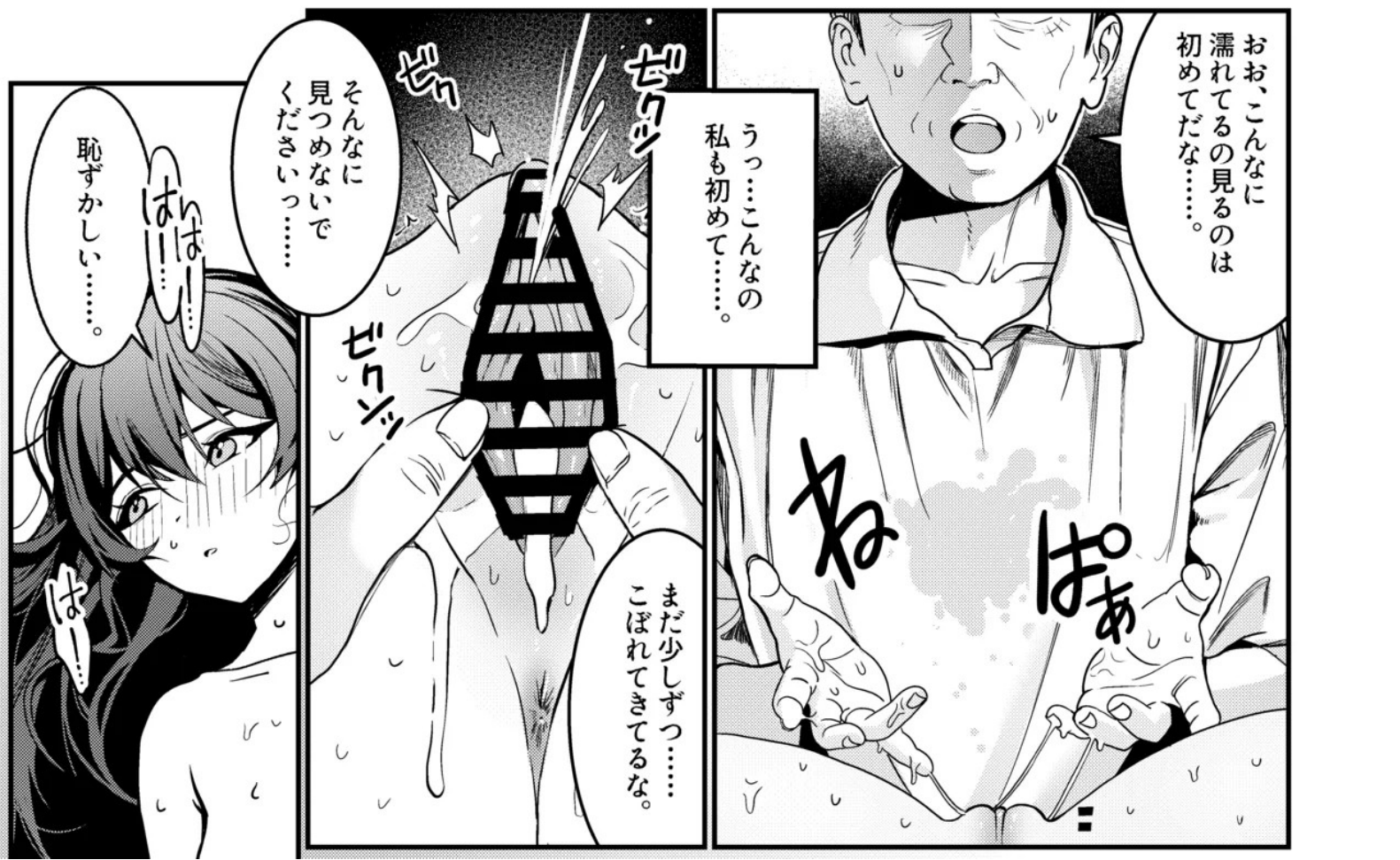
これ…  
我慢でどうにかなる  
レベルじゃない……！

もうやめてっば！

やだあ……！

ぢぢ

ゼンゼン







こんなに濡れてるのに…  
こんなの、入らないです…!

あーあーあー  
あーあーあー  
んあー

ズッ  
ズッ  
ズッ

びしょびしょ



そんな…  
ゆっくり  
刺激されたら…。

力を抜いて、  
素直に受け入れてごらん。



はー

はー  
はー



経験豊富な  
おじさんに  
任せなさい。

で、でもっ…!

はー!  
はー!  
はー!  
はー!





ダメなのに……

あッ

あッ

クッ



おじさんを  
受け入れる……

は!

は!

は!



これ以上は……

ほちがッ

ほちがッ

ほちがッ

身体はもう、

めちゃくちゃに  
突っ込まれたら…

だ…だめ

な、何これ……  
火照って……

あぁぁぁ

ほんほんほんほん

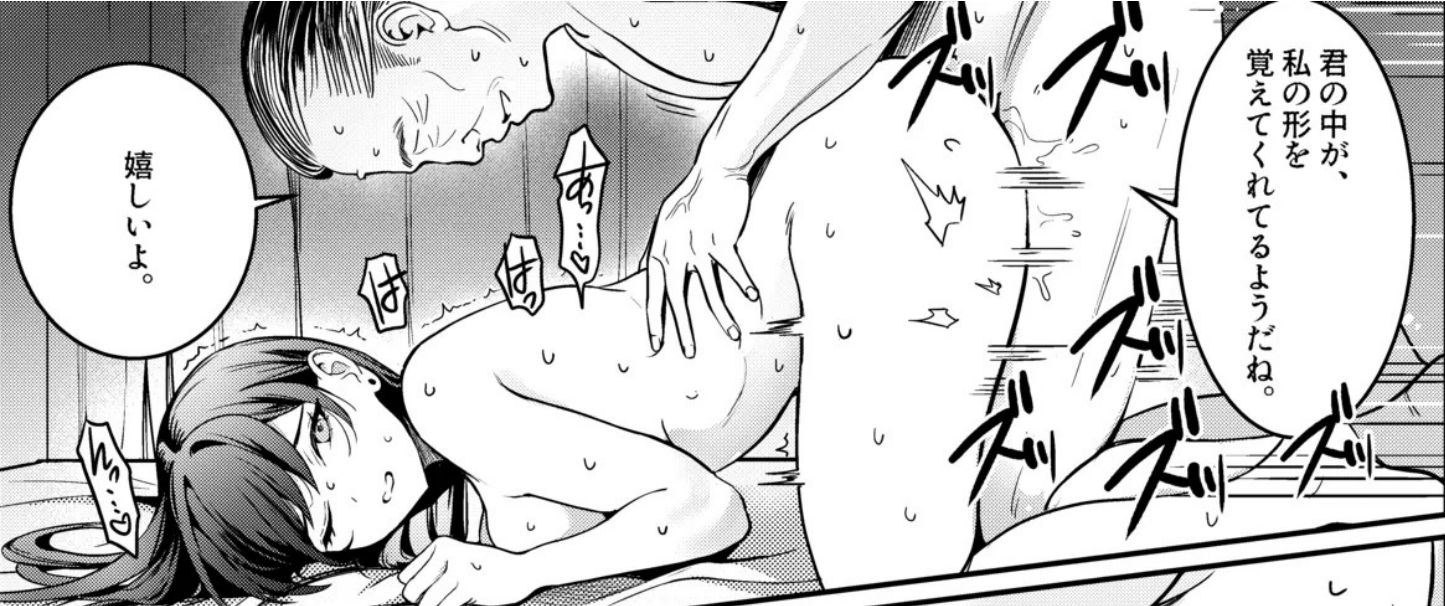
ほんほんほん

あぁ

ようやく  
本調子ってとこかな？

んんん

んんん



君の中が、  
私の形を  
覚えてくれてるようだね。

嬉しいよ。



でも、そんなに  
奥まで  
されたら……っ！

もう……  
ムリ……！





最後にいい思い出  
作れたな。  
結婚生活、  
楽しめよ。



何はともあれ、

抜く時に  
そんなに  
力入れられたら、  
困るよ……。

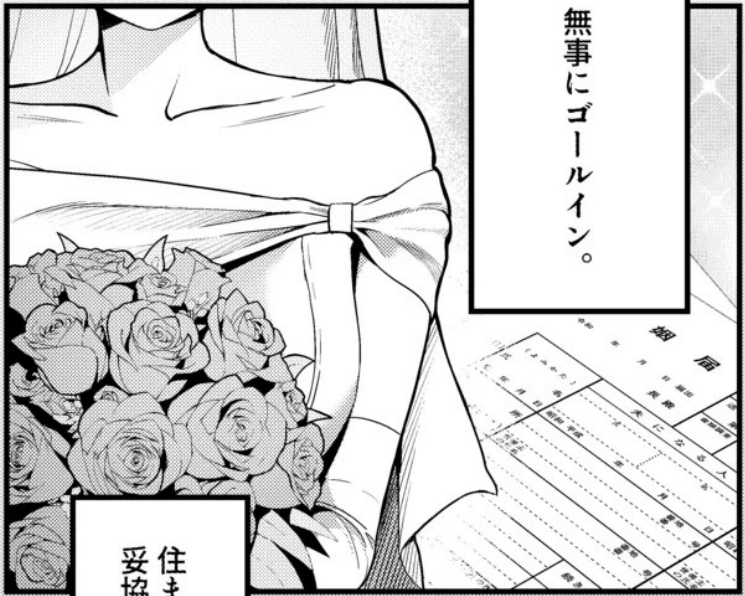


私が動かないと  
終わらないし……  
ほんと、使えない男……。

トモミの腰使い、  
マジで  
ヤバいんだよ。

もう……  
やめてくださいよ……  
でも、嬉しい……♡

夫との夜の相性を  
除けば、ね。



無事にゴールイン。

住まいも収入も  
妥協範囲……

まあ、悪くない。



あぁ

はっ……

はぁ

たっ



欲求不満で  
おかしくなりそうになって、  
気付いたら……

世やぶ

世やぶ  
まじ

毛

トモミ……

いきなり来るなんて、  
びっくりしたよ。  
どうかしたのかと  
思ったじゃないか。

世やぶ

世やぶ

本能のままに、  
この人に触れてた。





だったら、  
これで黙らせてあげる。



Sさんが忙しくて……  
正直、ちょっととした  
代用品が  
欲しかっただけです。



でも……  
君はもう  
人妻だろう？



今日は  
やけに喋るわね……

ちゅぽぽ  
ちゅぽぽ

ちゅぽぽ

ちゅぽぽ



まずはココを  
軽く刺激して……

そのあとで、  
程よく触れてあげる。



勢いよく差し込む。  
これを繰り返せば……



優しく抜いて、



もう限界だ……!

うわっ……  
こ、これは……  
出る……



もう少しゆっく……  
ううっ……!

あ……  
それは……

出ちやう！



おじさん？

...

顔、  
けっこうついちゃいましたよ。  
ティッシュ？

ははは！

ははは！

前にも思ったけど...  
おじさん、  
まだまだ現役ですね？

ははは！



え？

うそ  
もうまた  
勃ってるの？

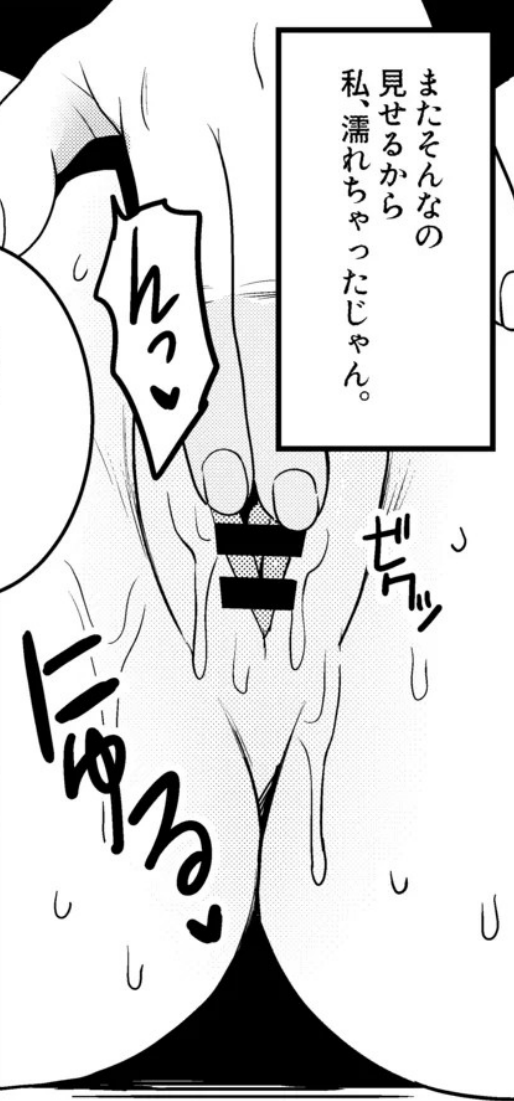
トモミを見ると...  
自然と、ね。

ええっ



おじさんと、  
するの...  
嫌いじゃないんです。

トモミ  
どうして...



またそんなの  
見せるから  
私、濡れちゃったじゃん。

んっ

セックス



また来る

だから  
こんな  
濡れてたんだね。

私をここに  
戻させた  
あの快感が。

ギョ  
ヌルル

あッ



前より抵抗が  
少ないな…  
もう私の  
慣れたって  
ことかな？

だって  
おじさんの、  
大きいから。

あッ、あと  
中には絶対  
出さないで  
くださいね。

ゆっくりなのに  
どうしてこんなに  
感じちゃうの……？  
中に出されたら  
本当に、妊娠しちゃう。

ゴッ  
ゴッ

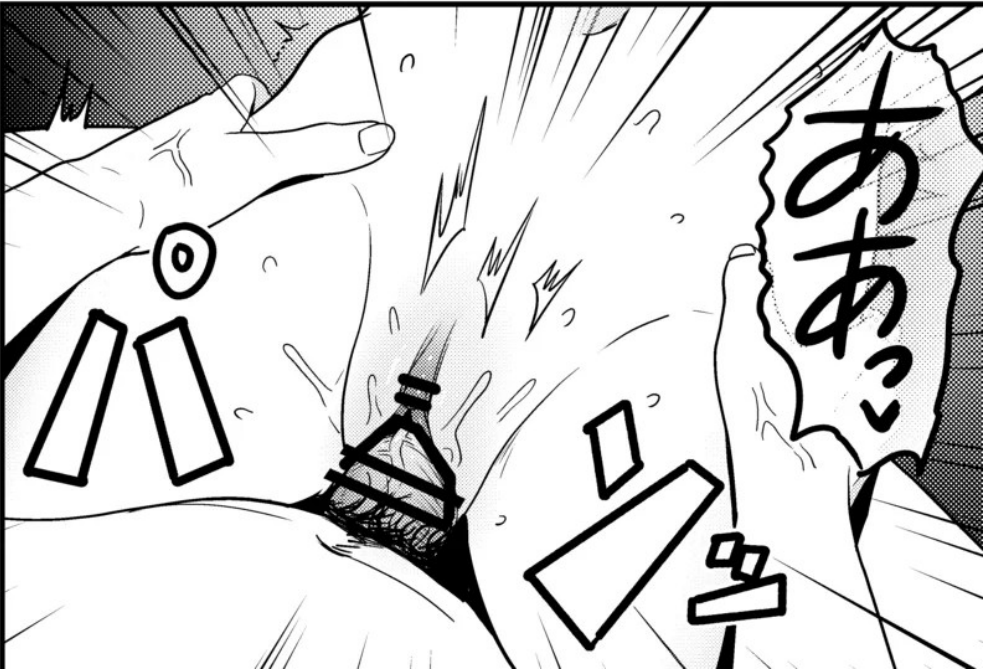
ゴッ



まあ……  
いきなり押しかけたんだもんね、  
ゴムなんてあるわけないか。

生でしてるせいかな  
奥がびくびくしてる。

中がぬるぬるしてて  
まるで  
歓迎されてるみたいだな。  
sくんには悪いが  
これは、たまらん感触だ。



前は  
キスさえ  
拒んでたのに

今日は、  
自分から  
舌を絡めてくるとはね。

唇を交わすだけで  
どうして、  
下まで疼くの

ぬる...

ちゅん...  
ちゅん...

じゅん...  
じゅん...



え.....?

また、  
奥まで届いた

くらえきれん...!







来る……!!



ぬぼ

は は は は は は は は

私は  
また

一線を  
越えてしまった。

はーはー

はー

はー

はーはー

ああ  
気持ちよすぎて  
中に……  
大丈夫だろう？

今日は、  
危ない日じゃ  
ないんだよね？

それから私は、  
たびたび彼のもとを  
訪れるようになった。

うわああっ、  
トモミ!

一度深く  
越えてしまった  
線は、

もう深さも回数も  
意味を失っていた。



トモミは  
欲が深いな。

これ…  
ほんとにすご…

雨の日も、  
雪の日も、

おじさんも、  
負けてないくせに

んあ…

時間なんて関係なく  
欲を満たすために、  
私は通った。

その頃、sくん

あ、  
ありました！  
じゃ、  
すぐ修正します！



あ、すみません、  
資料が…

この関係が  
間違っているってことは、  
自分でもわかってる。

ずいぶん  
頻繁に来てるね。  
大丈夫かい？

でも……。

やめられない。

その頃、sくん\_2

トモミ……

今日も遅いな。  
仕事が  
忙しいのかな……



午前5時  
ちよっと前です。



今、何時だ？



今日はちよっと  
外せない予定があつてね。

おととと

急に  
出ることになって  
悪いね。

大丈夫ですよ。  
少し休んでから帰りますから。

名残惜しいけど、  
最近あんまり  
家を空けすぎたし…  
そろそろ戻らなきゃね。

君と一緒にいると、  
ほんと…  
時間が飛ぶように  
過ぎてしまうなあ。

ぬぽん



あ、そうだ…  
今日、私の誕生日だったんですね。

そうなのか。  
そりやおめでたい。

俺もちようど  
出かけるところだし、  
Sくんのもとへ帰って、い…



…

Sさんには、  
なんて言えば  
いいんでしょうね…。

「友達と過ごしてた」っていうのも、  
もうバレそうだし…  
あのパターン、  
前に使っちゃったし。

今回は実家に帰ってた…  
ってことにして、  
実家の方にも話を  
合わせておいた方が  
いいかもしれませんね。

どう思います？

…ト…



こんなになさぐ…  
刺激が  
強くなつて…!



おじさん?



くっ…  
もう、  
限界かもしれん…

さっきより…  
もっと奥まで…?

うそ



出る

びゅるるるる

おっほり

あーん  
あーん  
あーん

ト  
キョッ

この人からは、



はあ

はあ

はあ

もう  
逃れられない…。



てんてん

てんてん

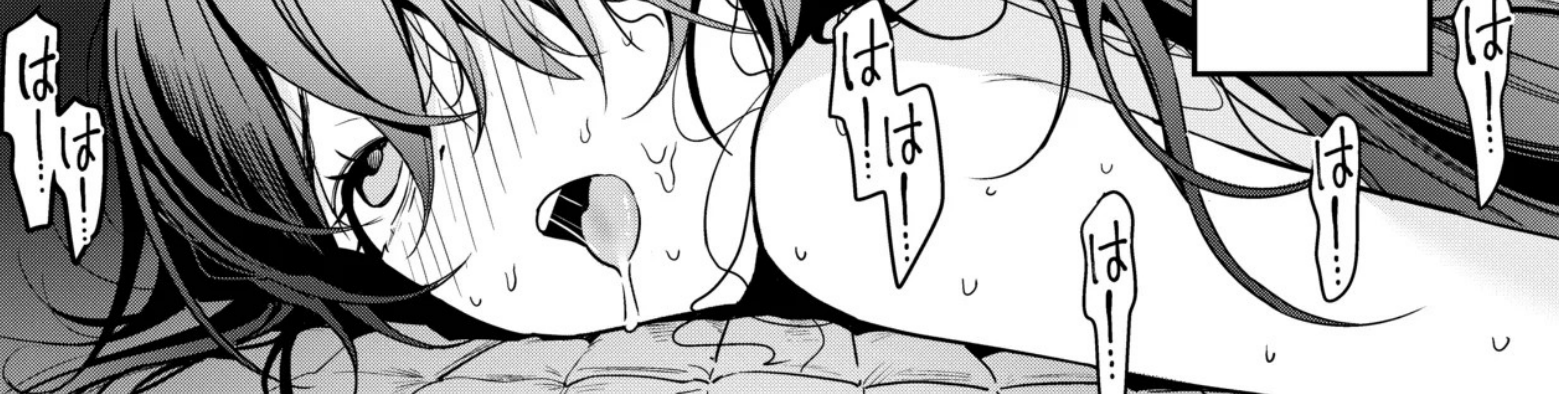
てんてん

てんてん

てんてん

終わったあとも、  
何も考えられなかった…。

私…  
本当にこれで  
よかったのかな…。



は…は…  
は…は…  
は…  
は…  
は…



余韻が強くて、  
体が動かない…。

さあ、  
そろそろ行かなくちゃな。

誕生日プレゼント、  
たっぷり  
あげちゃったから…  
満足だよ。

君も…  
満足そうな顔してるな。

じゃあ、  
俺は  
これで失礼するよ。



本当の新婚生活は、おじさんの家で始まっています♡完



あっ…もうこんな時間！  
急いで帰らなきゃ…！！

今回は、  
現実に戻るまでに…  
少し時間がかかった。

『作中では見られない、想像上の三人の姿。』

描きたくて入れてみたイラストです。

if...



初めて制作したオリジナル同人誌で、  
まだまだ拙い点が多々ございますが、お楽しみいただけましたら幸いです。  
次回は、より面白く、ページ数も増やし、画力の向上もお見せできるよう努力してまいります。  
少々欲張りかもしれませんが、不可能なことではないと信じ、今後も挑戦を続けていく所存です。

ご購入いただき、誠にありがとうございました。



本当の新婚生活は、おじさんの家で始まっています♡

サークル DAMDA  
発行者 DAMDA  
発行日 2025.8.17

印刷 株式会社サングループ

Twitter <https://x.com/kainss701>